

青森県、平川市…台中市（台湾）

Taichung City, Taiwan

1 提携年月日 平成28年12月14日（友好交流協定締結の日）

2 台中市の概況

台中市は、台湾の中央部に位置し、2010年12月25日台中県と台中市を合併して新たに直轄市に昇格した、台湾中部の5つの都市と郡の中心である。面積は約2,215km²、シンガポールの3倍、香港の2倍で、人口はおおよそ277.7万人（2017年現在）。人口から見れば、台湾第2の都市である。

台湾中西部に広がる台中盆地に位置し、東西には大坑山、大肚山が連なっている。平均気温は約23℃、四季を通じて温暖な気候となっている。

この都市は29の行政区で構成されており、それぞれが独特の自然で文化的特徴のある景色を持っている。このため、明と清の王朝と日本統治時代には、文化の混在がゆっくりと発展した。何世紀にもわたって、異なる背景を持つ人々が台中に移住して和解し、多様な文化の社会が育まれた。

経済面では、第一次産業の柱は農業であり、自由貿易とグローバル化に支えられて、競争力を高めるために、特定の農業とレクリエーション農業に移行した。

第二次産業では、精密機械および工具工場が中部台湾の産業の中心であり、産業クラスターを形成して金属契約製造、電子部品および関連製造の開発を進めてきた。

第三次産業の商業サービスは、創造性と革新によって、独自の特徴とスタイルを開発した。

都市が持続可能な発展を確保するためには環境保全が不可欠で、台中市は、台中を緑の庭園都市に発展させるための「低炭素都市推進チーム」を立ち上げ、現在も多くの公園、広場、子供公園、水路と道路沿いの緑が設置されている。市はまた、緑の建物や緑のヘッジ/壁の建設のために民間部門にアピールし、街をさらに美しくした。

3 協定提携までの経緯

◎平成27年 台中市の有力者から、台中市が青森県との交流を希望しているとの連絡あり。

◎同年9月 観光国際戦略局次長が台中市政府を初訪問。交流の可能性のあるランタンフェスティバル、国際教育旅行、温泉交流について交流の可能性を探ることとした。

◎同年11月 この交流への参加を平川市長に依頼。合意。

◎同年12月 知事、平川市長が台中市を訪問し、台中市長と懇談。

◎平成28年5月 知事が台中市を訪問し、今後の交流について台中市長と合意。

◎同年8月 協定の締結について前向きに進めることで合意。

◎同年11月 台中市観光旅遊局陳局長が県を訪問。

◎同年12月 友好交流協定締結。

4 交流の現状

- ◎平成 29 年 2 月 台中市ランタンフェスティバルにおいて、平川市女子囃子組のステージパフォーマンス実施及びねふたランタンを配布（ランタンは台中市僑光科技大の学生製作）。
- ◎同年 8 月 台中－青森間のチャーター便を東奥日報が実施。この便を使って県からミッション団（青山副知事、長尾市長、平川市議員団）が台中市を訪問。
- ◎同年 9 月 台中市温泉観光協会が来青し、県内の温泉施設と意見交換、協定締結に向けて検討。
- ◎同年 9 月 台中市温泉祭りにおいて、温泉パスポートキャンペーンを実施。本県からも参加。
- ◎同年 12 月 青森県温泉協議会と台中市温泉観光協会が友好交流協定を締結。
- ◎平成 30 年 2 月 台中市ランタンフェスティバルにおいて、平川ねふたを展示するとともに、平川市女子囃子組のステージパフォーマンス実施及びねふたランタンを配布。
- ◎同年 10 月 青森県温泉協議会が台中市温泉祭に参加。
- ◎同年 11 月 2018 台中フローラ世界博覧会開幕式へ出席。
- ◎平成 31 年 2 月 台中市ランタンフェスティバルにおいて、平川ねふたを展示するとともに、平川市女子囃子組のステージパフォーマンス実施及びねふたランタンを配布。
- ◎令和元年 7 月 知事が台中市を訪問し、今後の交流について台中市副市長と懇談。
- ◎同年 8 月 台中市温泉観光協会が来青し、県内の温泉施設と意見交換。
- ◎同年 9 月 台中市サイクリングフェスティバルに参加し、本県観光を PR。
- ◎令和 2 年 2 月 台湾ランタンフェスティバルにおいて、平川ねふたを展示するとともに、ねふたランタンを配布。